

平成29年度

地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」のまとめ

平成 30 年 3 月

兵庫県教育委員会

目 次

I	平成29年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」実施状況 のまとめ		
1	参加生徒数等について	・・・	1
2	公立中学校及び県立中等教育学校の活動について	・・・	2
3	市立特別支援学校の活動について	・・・	5
II	地域連携推進活動（地域に活かす「トライやる」アクション） 実施状況について	・・・	6
[資料1]	平成29年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」実 施後アンケート調査の結果	・・・	7
[資料2]	平成29年度「トライやる・ウィーク」校区推進委員 会について	・・・	15

I 平成29年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」実施状況のまとめ

1 参加生徒数等について

- (1) 実施校は、360校（全公立中学校341校、県立中等教育学校1校、市立特別支援学校18校）
 6月を中心に実施した学校：225校(62.5%)（内数：市立特別支援学校 5校）
 11月を中心に実施した学校：135校(37.5%)（内数：市立特別支援学校 13校）
- (2) 実施期間は、平成29年5月8日～平成29年12月1日
- (3) 参加生徒数は、44,922名（内数：特別支援学級674名、市立特別支援学校164名）
- (4) 班数は、16,872班で1班につき生徒平均2.7名 ※20年間：993,237名
- (5) 活動場所数は、16,969カ所で1カ所につき生徒平均2.6名
- (6) 指導ボランティアの数は、22,657名でボランティア1名につき生徒平均2.0名
- (7) 介助補助員数は、221名（特別支援学級等155名、市立特別支援学校66名）

年度	実施校数	2年生		班の数	活動場所の数	指導ボランティアの数
		学級数	生徒数			
H29	360	1,345	44,922	16,872	16,969	22,657
H28	359	1,443	46,518	17,365	17,383	22,906
H27	362	1,418	47,523	17,657	17,557	22,531
H26	362	1,409	48,045	18,040	17,373	22,577
H25	364	1,415	48,801	17,660	17,261	22,955
H24	366	1,448	49,514	17,515	17,312	22,855
H23	365	1,437	48,885	17,355	17,306	21,992
H22	368	1,413	48,094	17,110	16,325	19,858
H21	369	1,403	47,271	16,487	15,893	20,093
H20	371	1,428	48,806	17,515	16,267	19,810
H19	370	1,381	46,821	17,019	15,498	20,509

年度	班編制	活動場所	指導ボランティア
H29	1班：2.7名	2.6名につき1カ所	2.0名につき1名
H28	1班：2.7名	2.7名につき1カ所	2.0名につき1名
H27	1班：2.7名	2.7名につき1カ所	2.1名につき1名
H26	1班：2.7名	2.8名につき1カ所	2.1名につき1名
H25	1班：2.8名	2.8名につき1カ所	2.1名につき1名
H24	1班：2.8名	2.9名につき1カ所	2.2名につき1名
H23	1班：2.8名	2.8名につき1カ所	2.2名につき1名
H22	1班：2.8名	2.9名につき1カ所	2.4名につき1名
H21	1班：2.9名	3.0名につき1カ所	2.4名につき1名
H20	1班：2.8名	3.0名につき1カ所	2.5名につき1名
H19	1班：2.8名	3.0名につき1カ所	2.3名につき1名

2 公立中学校及び県立中等教育学校の活動について

(1) 活動内容

ア 分野別

活動分野	H29	H28	H27	H26	H25	H24	H23	H22	H21	H20	H19
① 職場体験活動	83.1%	82.8%	82.5%	83.8%	83.5%	84.4%	83.5%	81.7%	82.6%	82.0%	82.7%
② ボランティア・福祉体験活動	8.7%	8.9%	9.3%	8.3%	8.0%	7.3%	7.8%	7.8%	7.0%	7.5%	6.6%
③ 文化・芸術創作体験活動※1	3.7%	3.9%	4.0%	3.4%	3.1%	3.7%	3.9%	3.8%	4.5%	4.8%	5.0%
④ 農林水産体験活動	2.3%	2.3%	2.4%	2.2%	2.2%	2.4%	2.5%	2.7%	2.8%	2.9%	2.8%
⑤ その他※2	2.3%	2.1%	1.8%	2.3%	3.2%	2.2%	2.3%	4.0%	3.1%	2.8%	2.9%

※1 ③「文化・芸術創作体験活動」には、平成16年度から「地域・郷土・芸能活動」が含まれている。

※2 ⑤「その他」には、「国際理解、科学技術、環境、情報」が含まれている。

イ 内容別（上位10の活動内容）

活動内容	H29	H28	H27	H26	H25	H24	H23	H22	H21	H20	H19
① 幼児教育	20.8%	20.9%	20.8%	20.6%	21.1%	20.8%	20.7%	20.9%	21.1%	21.0%	21.0%
② 販売	17.7%	17.9%	17.6%	20.3%	19.6%	19.3%	19.2%	19.6%	19.3%	19.4%	20.3%
③ 役所・消防署等	8.5%	7.8%	7.7%	7.5%	8.0%	7.9%	8.4%	7.8%	8.0%	7.8%	7.8%
④ 社会福祉施設	8.0%	8.0%	8.0%	7.1%	6.9%	6.3%	6.5%	5.9%	5.4%	5.5%	5.0%
⑤ 飲食店等	7.1%	6.9%	7.0%	7.0%	6.5%	6.4%	6.6%	6.1%	6.4%	6.1%	5.5%
⑥ 小学校・高校・大学	6.7%	6.1%	5.9%	5.4%	5.5%	5.4%	5.0%	4.6%	4.6%	4.3%	4.2%
⑦ 製造・建築	4.3%	4.5%	4.7%	4.7%	5.1%	5.0%	4.7%	4.9%	4.9%	5.7%	5.8%
⑧ 病院等	4.1%	4.0%	3.8%	3.8%	3.7%	3.6%	3.7%	3.5%	2.9%	3.4%	3.3%
⑨ 文化・芸術創作体験活動※	3.7%	3.9%	4.0%	3.3%	3.1%	3.7%	3.9%	3.8%	4.5%	4.8%	5.0%
⑩ スポーツ・体育施設等	3.4%	3.5%	3.6%	3.5%	3.7%	3.7%	3.8%	3.7%	3.7%	—	—

※ ⑨「文化・芸術創作体験活動」には、平成16年度から「地域・郷土・芸能活動」が含まれている。

ウ 本年度の特色ある取組

<p><地域限定の施設での体験></p> <ul style="list-style-type: none"> 郷土ゆかりの作家の資料整理 指定文化財の保全・説明業務 空港での旅客業務手続き体験 天文台での天体観測・研究活動 コウノトリ生態観察・飼育 アスレチック施設の整備 高速船での荷物運搬・船内清掃 ヨットのメンテナンス 	<p><地域特有産業等での体験></p> <ul style="list-style-type: none"> 醤油の製造・商品開発 たまねぎの収穫・出荷作業 牡蠣の養殖作業 瓦製作 釣竿・釣針の製造 太鼓の皮張り作業 播州織物の染色 赤穂緞通 	<p><その他特徴的な体験></p> <ul style="list-style-type: none"> 水棲生物の飼育管理・採集 遺跡の発掘調査、出土品の整理 環境保全の啓発活動 観光PR活動、ボランティアガイド 地域のラジオ局での番組制作 就労支援施設でのパン製造 鑑識体験、交通安全啓発活動 高齢者の介助（車椅子移動・散歩等）
---	--	---

(2) 生徒の希望達成度

・第一希望が叶えられた生徒は、69.4%である。

活動内容	H29	H28	H27	H26	H25	H24	H23	H22	H21	H20	H19
・第一希望が叶えられた生徒	69.4%	70.2%	68.4%	68.1%	69.1%	70.0%	70.9%	70.6%	70.0%	70.7%	69.8%
・第二希望が叶えられた生徒	16.7%	17.4%	17.1%	18.9%	17.6%	17.1%	16.5%	16.2%	16.5%	16.1%	17.4%
・第三希望が叶えられた生徒	7.0%	5.9%	6.4%	7.1%	7.4%	6.8%	6.6%	6.5%	7.2%	6.6%	6.8%
・その他	6.8%	6.5%	8.1%	6.0%	5.9%	6.1%	6.0%	6.7%	6.3%	6.6%	6.0%

(3) 第一希望にならなかった生徒への対応（複数回答）

- ・活動の意義の話 ……63.2%
- ・他の紹介及び新しい受入先開拓 ……61.1%
- ・時間をかけて話し合った ……43.0%

(4) 生徒の「やりたいことができる」活動場所の確保について

- ・新規の活動場所の割合（数） ……10.3%（1,736カ所）
- ・校区外の活動場所の割合（数） ……43.7%（7,368カ所）

(5) 事前指導について

ア 事前指導の平均時間数…11.5時間

イ 主な事前指導の内容例（公立中学校及び中等教育学校の実施率）

・希望調査	(98.7%)	・名刺作り等	(85.7%)
・趣旨及び活動説明会	(97.2%)	・出発式	(81.3%)
・受入先への訪問	(97.1%)	・ボランティア等との打ち合わせ	(74.9%)
・マナー指導等	(94.7%)	・他学年、地域等への啓発活動	(68.1%)
・受入先の紹介等	(88.6%)	・福祉学習	(31.6%)

(6) 事後指導について

ア 事後指導の平均時間数…7.9時間

イ 主な事後指導の内容例（公立中学校及び中等教育学校の実施率）

・礼状作成等	(97.7%)	・発展学習	(47.7%)
・感想文集作成等	(95.9%)	・「トライやる」アクション	(40.4%)
・実践発表会	(84.5%)	・交流会	(19.6%)
・広報活動	(53.2%)		

※ 発展学習実施校（163校）の内訳

情報学習	(57.7%)	福祉・健康学習	(62.6%)	人権学習	(47.2%)
防災学習	(37.4%)	環境学習	(26.4%)	平和学習	(19.0%)
国際理解学習	(9.8%)				

(7) 事前・事後指導における進路学習の実施（公立中学校及び中等教育学校の実施率）

- ・事前指導のみ ……21.1%
- ・事後指導のみ ……6.4%
- ・事前指導・事後指導どちらも実施……62.3%
- ・実施していない ……10.2%

(8) 「トライやる・ウィーク」における校種間連携について

小学校と連携した取組の実施	57.9%	高等学校と連携した取組の実施	9.1%
---------------	-------	----------------	------

〔連携した内容〕

- ・小学校で活動した生徒が、給食指導、授業補助、環境整備、図書便りの作成等に取り組んだ。
- ・実践発表会に児童が参加している。
- ・小学校で、中学生生活の説明会等を行っている。

(9) 不登校生徒への影響（市立特別支援学校は除く）

- ・1年生の時に不登校の生徒（年間30日以上欠席）のうち、「トライやる・ウィーク」に全日参加した生徒は、476名（全体の41.4%）であった。
- ・実施後1ヵ月の状況は、199名（全日参加生徒の41.8%）の生徒の登校率が上昇した。

	調査校	在籍生徒数	左のうち1年生の時に不登校の生徒数	全日参加生徒数	実施後1ヵ月の状況 登校率の上昇した生徒	実施後2ヵ月の状況 登校率の上昇した生徒
H29	342校	45,459名	1,151名	476名	199名	172名
				41.4%	41.8%	36.1%
H28	342校	46,930名	997名	428名	191名	176名
				42.9%	44.6%	41.1%
H27	346校	47,876名	994名	421名	126名	139名
				42.4%	29.9%	33.0%
H26	346校	48,548名	889名	360名	151名	136名
				40.5%	41.9%	37.8%
H25	347校	49,128名	977名	442名	188名	178名
				45.2%	42.5%	40.3%
H24	348校	49,399名	984名	457名	175名	157名
				46.4%	38.3%	34.4%
H23	348校	48,781名	916名	427名	163名	154名
				46.6%	38.2%	36.1%
H22	350校	48,614名	887名	344名	128名	129名
				38.8%	37.2%	37.5%
H21	352校	48,021名	934名	383名	152名	143名
				41.0%	39.7%	37.3%
H20	354校	49,323名	948名	405名	151名	139名
				42.7%	37.3%	34.3%
H19	353校	47,369名	965名	442名	159名	144名
				45.8%	36.0%	32.6%

3 市立特別支援学校の活動について(平成 17 年度から実施)

(1) 実施校数 18 校

6 月を中心に実施した学校：5 校、11 月を中心に実施した学校：13 校

(2) 実施期間 平成 29 年 5 月 22 日～平成 29 年 11 月 28 日

(3) 参加生徒数 164 名 (57 クラス、在籍生徒数 174 名)

(4) 班数 95 班 (1 班平均 1.7 名)

(5) 指導ボランティア数 238 名 (生徒 0.7 名につき 1 名)

(6) 介助補助員数 66 名 (生徒 2.5 名につき 1 名)

(7) 活動場所数 112 ヲ所

居住地中学校区内で活動した生徒の割合 54.5% (90 名/164 名)

	実施校数	2 年生		班の数	活動場所 の数	指導ボラン ティアの数	介助補助員 の数
		学級数	生徒数				
H29	18	57	164	95	112	238	66
H28	17	55	150	120	109	174	96
H27	18	46	135	109	109	234	109
H26	16	45	146	103	182	201	86
H25	17	37	112	58	86	153	51
H24	18	41	115	85	119	137	55
H23	17	41	104	68	96	149	89
H22	18	38	104	68	93	145	118
H21	17	37	97	62	104	159	92

	班編制	活動場所数	指導ボランティア数	介助補助員数
H29	1 班：1.7 名	1.5 名につき 1 ヲ所	0.7 名につき 1 名	2.5 名につき 1 名
H28	1 班：1.3 名	1.4 名につき 1 ヲ所	0.9 名につき 1 名	1.6 名につき 1 名
H27	1 班：1.2 名	1.2 名につき 1 ヲ所	0.6 名につき 1 名	1.2 名につき 1 名
H26	1 班：1.4 名	0.8 名につき 1 ヲ所	0.7 名につき 1 名	1.7 名につき 1 名
H25	1 班：1.3 名	1.3 名につき 1 ヲ所	0.7 名につき 1 名	2.2 名につき 1 名
H24	1 班：1.4 名	1.0 名につき 1 ヲ所	0.8 名につき 1 名	2.1 名につき 1 名
H23	1 班：1.5 名	1.1 名につき 1 ヲ所	0.7 名につき 1 名	1.2 名につき 1 名
H22	1 班：1.5 名	1.1 名につき 1 ヲ所	0.7 名につき 1 名	0.9 名につき 1 名
H21	1 班：1.6 名	0.9 名につき 1 ヲ所	0.6 名につき 1 名	1.1 名につき 1 名

(8) 活動内容

ア 分野別

活動分野	H29	H28	H27	H26	H25	H24	H23	H22	H21
① 職場体験活動	53.4%	64.2%	58.3%	53.4%	61.5%	62.9%	55.8%	45.5%	51.9%
② 文化・芸術創作体験活動	17.2%	4.9%	5.8%	2.5%	8.9%	9.1%	7.3%	6.5%	9.1%
③ 農林水産体験活動	14.3%	8.7%	15.2%	12.7%	7.0%	11.1%	12.7%	15.6%	13.5%
④ ボランティア・福祉体験活動	9.5%	16.0%	16.9%	19.5%	13.1%	12.7%	23.5%	16.5%	16.4%
⑤ その他	5.6%	6.1%	3.8%	11.9%	9.6%	4.2%	0.8%	16.0%	9.1%

イ 内容別 (平成 29 年度上位 6 の活動内容)

① 農林水産体験活動	14.3%	④ 役所・消防署等	9.5%
② 製造・建築	12.6%	⑤ 社会福祉施設	9.2%
③ 水族館	9.5%	⑥ 販売	5.1%

ウ 本年度の特色ある取組

・水族園	・図書館	・消防署	・警察
・介護体験	・作業所での作業補助		

II 地域連携推進活動（地域に活かす「トライやる」アクション）実施状況について

(1) 実施校 210校 58.3% (H28 215校 59.9%)

(2) 参加生徒数 ()内は特別支援学校生徒参加数：内数

学年	参加生徒数	1校当たりの参加生徒数
1年生	16,846名(48)	80.2名
2年生	19,449名(26)	92.6名
3年生	13,958名(53)	66.5名
合計	50,253名(127)	239.3名

(3) 活動内容について ()内は特別支援学校：内数 (複数回答)

活動区分	実施校数	割合	実施回数	割合
地域の祭り等を企画、運営する活動	119校(2)	56.7%	298(5)	28.9%
清掃活動やボランティア等を諸団体と連携して行う活動	177校(2)	84.3%	579(2)	56.2%
「トライやる・ウィーク」の継続的な活動	68校(3)	32.4%	154(12)	14.9%
合計	※母数は、実施校数		1,031(19)	100%

(4) 活動の内容例

<ul style="list-style-type: none"> ・地域の夏祭り・運動会・音楽会等の企画 ・地域伝統行事への参加及び運営補助（盆踊り、餅つき、各地の祭り 等） ・地域行事への参加及び運営補助（マラソン大会、防災総合訓練 等） ・地域の清掃活動、クリーンキャンペーン、資源ごみ回収、海岸清掃 ・ふれあいコンサート、定期演奏会、訪問演奏会 ・街頭共同募金（赤い羽根、ユニセフ） ・点字・手話体験教室 ・国際交流（新春ふれあい交流会） ・敬老会、デイサービス・老人ホームでのボランティア ・こども園夏祭り、子育てボランティア体験、本の読み聞かせ ・ひまわりの植栽作業

(5) 実施時期について ()内は特別支援学校：内数 (複数回答)

	実施校数	割合	実施回数	割合
土曜、日曜日等を利用して実施	197校(5)	93.8%	693(13)	67.2%
夏季休業中に実施	134校(2)	63.8%	313(6)	30.4%
冬季休業中に実施	13校(0)	6.2%	20(0)	1.9%
春季休業中に実施	5校(0)	2.4%	5(0)	0.5%
合計	※母数は、実施校数		1,031(19)	100%

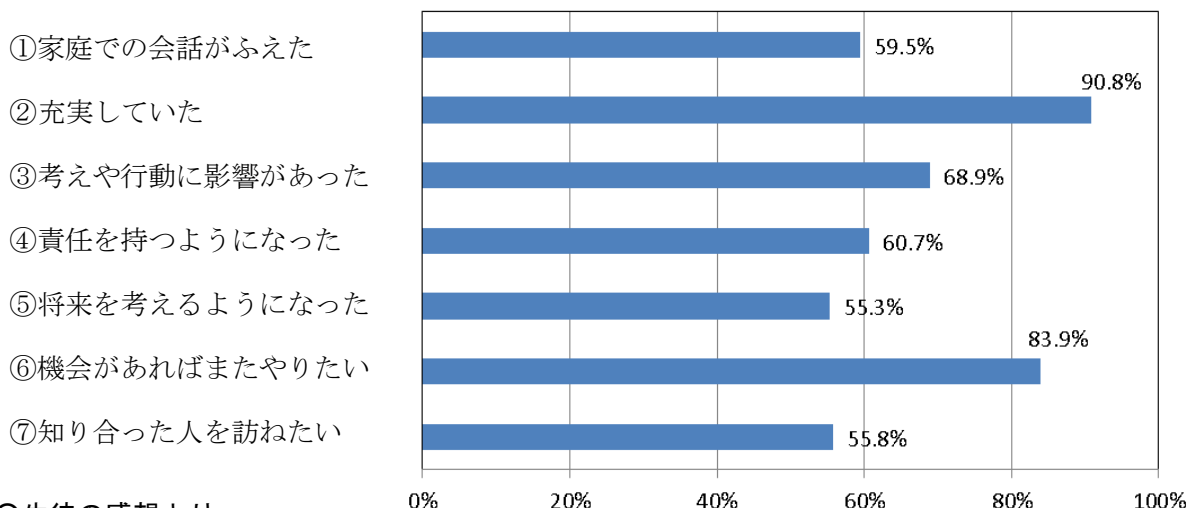
[資料1] 平成29年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」実施後アンケート調査の結果（調査実施校数 342校）

- 1 生徒アンケート（回答数 43,299人）
- 2 保護者アンケート（回答数 34,404人）
- 3 関係者アンケート（回答数 13,122人）
- 4 教職員アンケート（回答数 3,003人）



質問項目	平成 29 年度	平成 28 年度
働くことの大切さ、厳しさ、楽しさを感じた	90.5%	91.1%
コミュニケーションの大切さを感じた	79.8%	79.9%
社会のルールやマナーの大切さを感じた	74.5%	76.6%
大人の人の優しさを感じた	71.3%	71.7%
人のために役に立つうれしさを感じた	70.4%	70.0%
達成感や自信を感じた	68.8%	69.3%
人とのふれあうことの楽しさを感じた	67.7%	68.3%
保護者や大人の人への感謝の気持ちを感じた	66.5%	69.4%
学校で学んだり活動する目的の大切さを感じた	50.1%	52.3%

(設問) ①「トライやる・ウィーク」を体験する中で、家庭での会話がふえた。
 ②自分にとって、「トライやる・ウィーク」の一週間は充実していた。
 ③「トライやる・ウィーク」の活動で、自分の考えや行動に影響があった。
 新④「トライやる・ウィーク」の活動を終えて、自分の決めたことに責任を持つようになった。
 新⑤「トライやる・ウィーク」の活動を終えて、自分の進路や将来などについて考えるようになった。
 ⑥「トライやる・ウィーク」のような活動を機会があればまたやってみたい。
 ⑦「トライやる・ウィーク」が終わってからも、「トライやる・ウィーク」をきっかけに知り合った人たちを訪ねたいと思う。

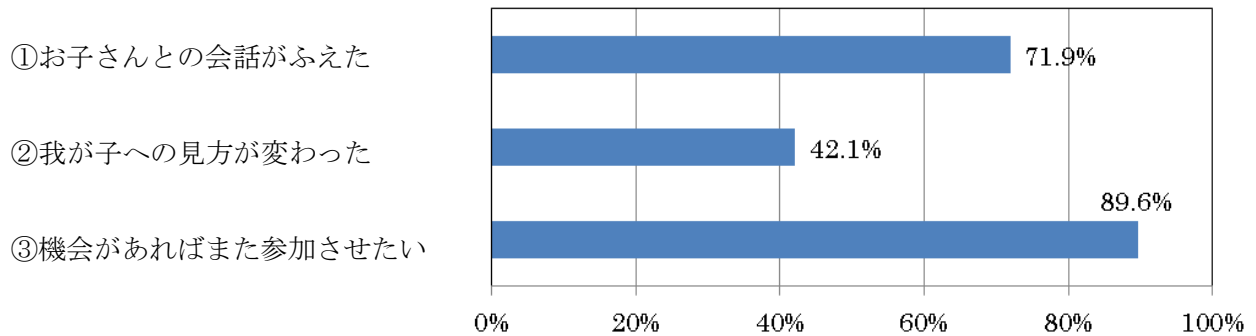


○生徒の感想より

- ・自分も将来社会に貢献し、家族を守ることができる大人に成長したいと感じた。
- ・責任をもって行動することの大切さや、どんなことでも挑戦することで苦手なことを克服できることがわかった。
- ・社会の厳しさ、仕事に対する責任感、あいさつの大切さ、そして働けることの幸せを感じることができた。
- ・相手の気持ちを読み取り、考える事の大切さを学んだ。
- ・保護者の愛情、人との出会いの素晴らしさ、仲間と協力することのうれしさを感じた。
- ・働くことの楽しさを学び、将来について考えるいい機会となった。

2 保護者アンケート（回答数 34,404人）

- （設問）
- ①「トライやる・ウィーク」を体験する中で、お子さんとの会話がふえた。
 - ②「トライやる・ウィーク」の活動を通して、我が子への見方が変わった。
 - ③「トライやる・ウィーク」のような活動を機会があれば、また参加させたい。

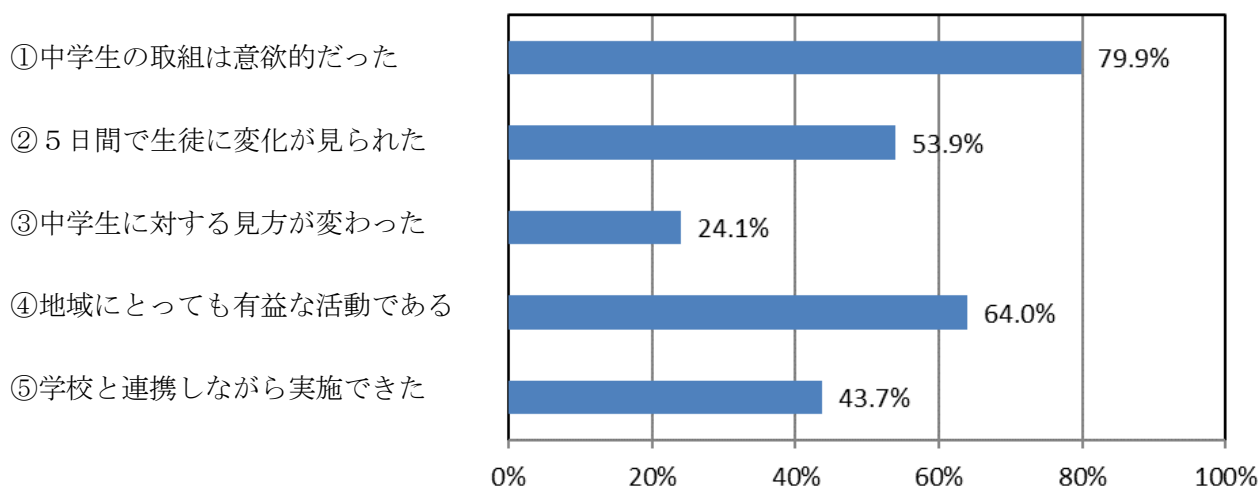


○保護者の感想より

- ・「してもらおう」という子どもの立場から、社会の一員として役割を果たす立場に近づき、やりがいや喜び、難しさを実感できました。
- ・最終日には自分で弁当を作り出勤しました。働く人の基本的な生活の流れを実感し、喜びや苦労を少しですが体験し、未来への夢の幅が広がりました。
- ・職場体験が意義深いことはもちろん、「人に頼りにされる経験」、「持ち場を任せられ責任を果たす経験」も貴重であり、今後の人生に大いに役立つと感じました。
- ・思春期の子ども達にとって社会との関わりを持つこの体験は、とても貴重なものになっていると思います。いろんなことを吸収して帰ってきました。ずっと続けて欲しい取組だと思います。
- ・自分から考え行動すること、受け身でなく自分から発信していくことの大切さを感じていました。受入先の方には忙しい中をお世話になり、本当に感謝しています。
- ・毎日子どもとの話をゆっくり聞く時間がとれ、親子とも充実した1週間でした。自分がめざす職業への見方も今までとは違うようになり、貴重な体験をさせていただきました。

3 関係者アンケート（回答数 13, 122 人）

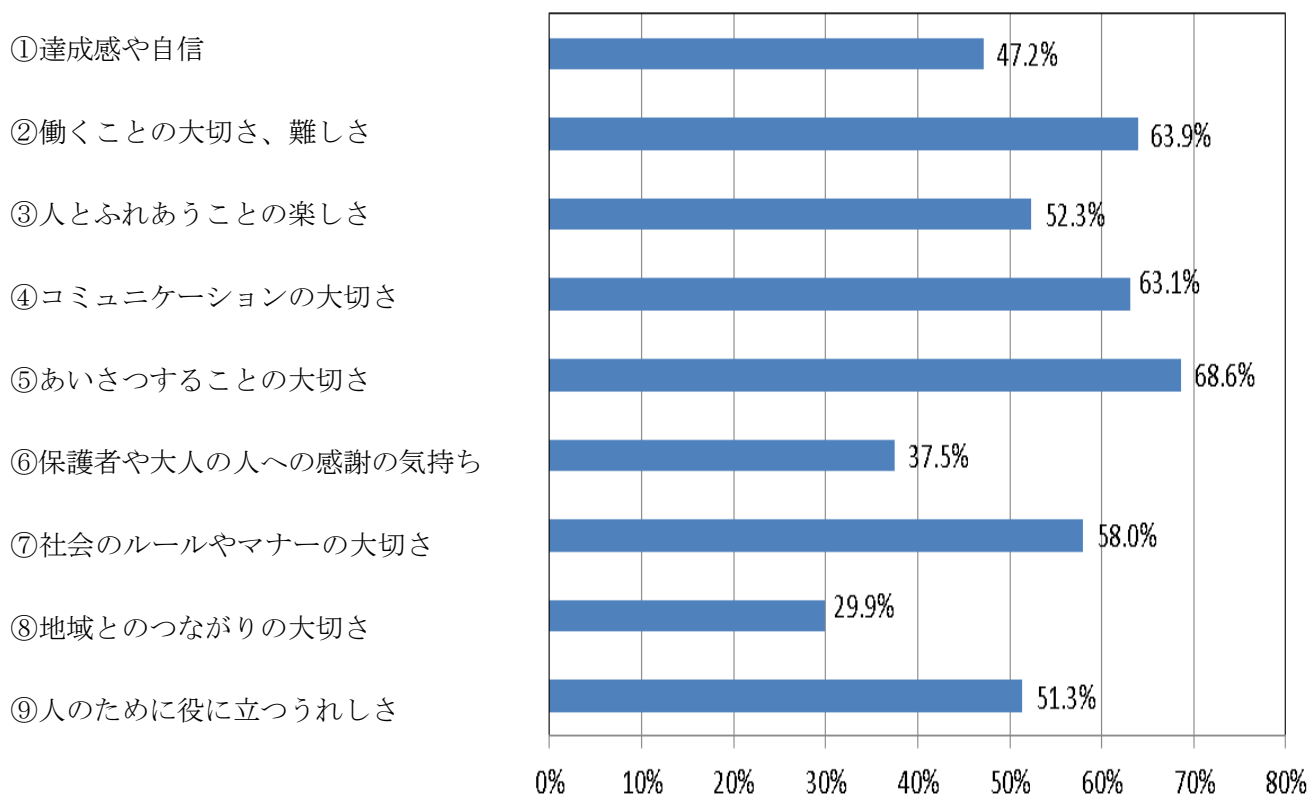
- （設問）①「トライやる・ウィーク」に参加した中学生の取組は意欲的だった。
②「トライやる・ウィーク」の5日間で生徒に変化が見られた。
③この一週間で中学生に対する見方が変わった。
④「トライやる・ウィーク」は地域にとっても有益な活動である。
⑤学校と連携しながら実施できた。



○ 指導ボランティアの感想より

- ・活動する中学生だけでなく、受け入れる側にも気づきのきっかけや考えるきっかけとなることもあり、交流の意義をととても感じている。
- ・学校の先生方が大きな愛情で熱心に取り組まれていることが分かった。地域で育てることの素晴らしさを改めて学ばせてもらった。
- ・社会に出る前に色々な社会体験をすることで、地域の社会貢献について学ぶことができると思うので、学生の方にとって有意義な時間であるし、我らにとっても自分達の仕事について改めて考えるきっかけになった。
- ・今年で20回目の「トライやる・ウィーク」になりますが、会社で働く社員にとって、自分の過去を思い出させてくれ刺激になります。さわやかな風が社内を吹き抜けたように感じました。
- ・「トライやる・ウィーク」の終盤になると、参加していた中学生がお店にとって必要な存在になった。子どもを守り、育み、高齢者を支える優しい街になるために、「トライやる・ウィーク」は続けていきたいと思います。
- ・生徒たちの純粋な気持ちでの取組に、私たちも、初心に戻り、基本の大切さを再認識することができた。
- ・自分の関心のある職業を選択し、そこで体験し、学習することで、仕事の大変さや達成感を感じる良い機会であります。自分の将来について考える機会になるので、継続できればと思います。
- ・長年「トライやる・ウィーク」を実施する中で、関係者の皆様の苦労も多いと思いますが、子どもたちを地域で見守る、育てるという意識が着実に生まれていると思います。

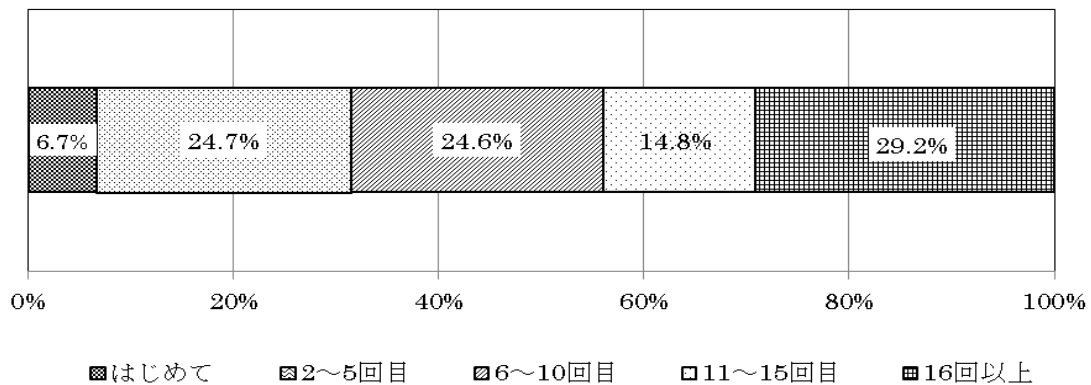
(設問) **新**受入先での社会体験において、生徒に身に付けてほしい力。



○ 身に付けてほしい力 (こと) (その他)

- ・感謝の気持ち、人に自分のできることで貢献しようと思える気持ち、自己肯定感—自分の良さ、強みがわかる力。
- ・ひとつのことを最後までやり遂げる粘り強さと自分の可能性を見つけること、高齢者と関わることにより、相手を思いやる心、やさしさ、気づき等の力。
- ・生きていく上での思考と行動は、自己実現を目的としたことであるということ。
- ・細かい仕事にも意味があり、周囲の人間への思いやり連携も仕事をする上で必要であること。
- ・どんな作業も大切に誰かのためになっているということ。コツコツと積み上げていく、小さな仕事もすべて大切な仕事であること。
- ・損得ではなく、善悪を判断できる力、他人への思いやり、忍耐力を身に着けてほしい。
- ・仲間を大切に助け合い協力し合える心の豊かさ。
- ・失敗した時や間違えた時には素直に謝ることの大切さと勇氣。
- ・地域の中で多くの人とふれあい、自分も地域の一員としての自覚と誇り。
- ・わからないことは「わかりません」わすれてしまったことは「忘れました」と知ったかぶりをせず、聞くこと、自分に正直に成長して欲しい。
- ・働けることへの感謝、自然の大切さ、思いやる心。
- ・固定観念に捉われずいろんな職業・働き方を公正な見方で見てほしい。自分の適性興味に叶う仕事にいつか巡り合う為の経験をたくさん積んでもらいたい。
- ・1つ1つの職業の重要性。困難に直面してもへこたれない強さ。
- ・将来に夢(目標)を持つこと大切さ。
- ・今、学校で勉強していることがやがて社会人になった時、役に立つこと。

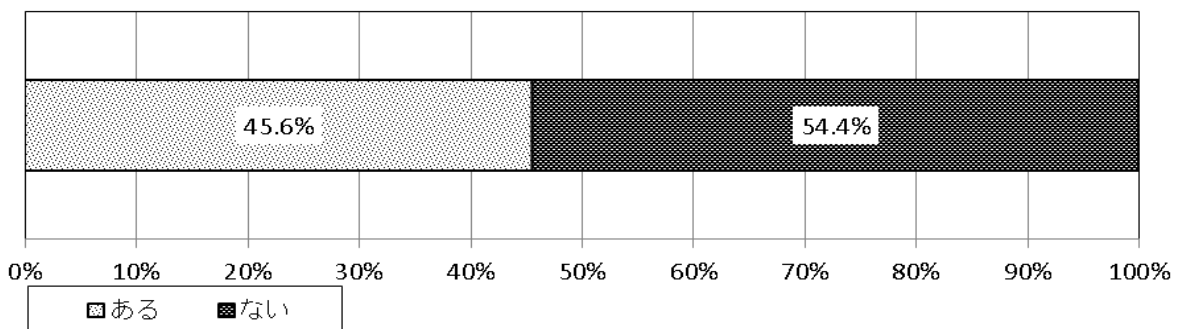
(設問) **新**「トライやる・ウィーク」の受入れは、今年で何回目ですか。



○ 学校との連携や生徒の様子など、感じることや思われること

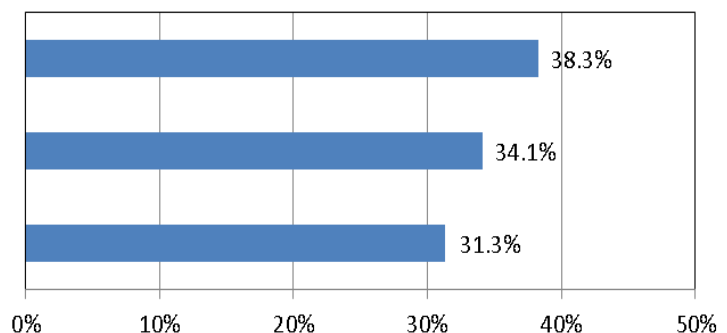
- ・地域の活性化。地域での定着度を感じます。これからも生徒、学校、地域がつながる関係を保ちたいと思います。
- ・初日と最終日には、生徒さんの意欲や姿勢の違いが手に取るように分かるほど、成長がみられます。
- ・短い期間ですが、生徒のみなさんの表情がより生き生きとしたものになっていく姿を見ることによりこちらもやりがいを感じることができました。
- ・「トライやる・ウィーク」は単なる社会体験ではなく、地域全体で子どもを見守り、将来を担う人材を育てるとも重要な取り組みだと感じています。

(設問) **新**「トライやる・ウィーク」以外の学校や生徒とのつながりがありますか。

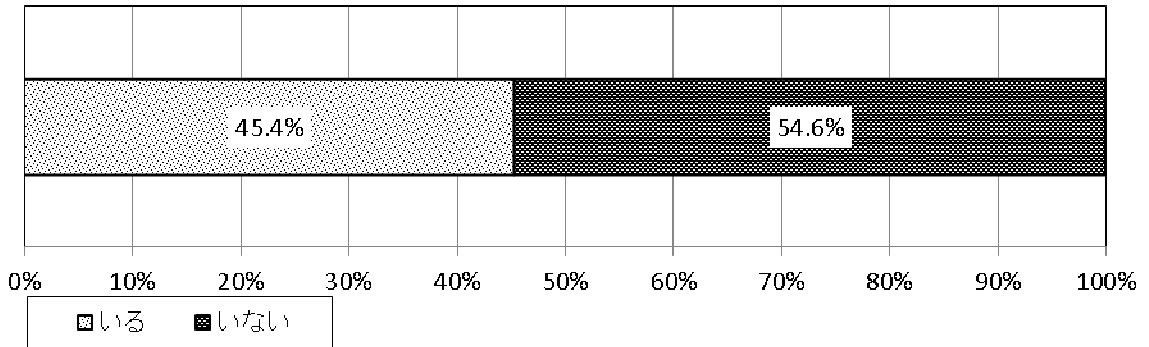


【つながりの内容】

- ①あいさつや会話
- ②学校の行事等への参加
- ③受入先の行事等への生徒の参加

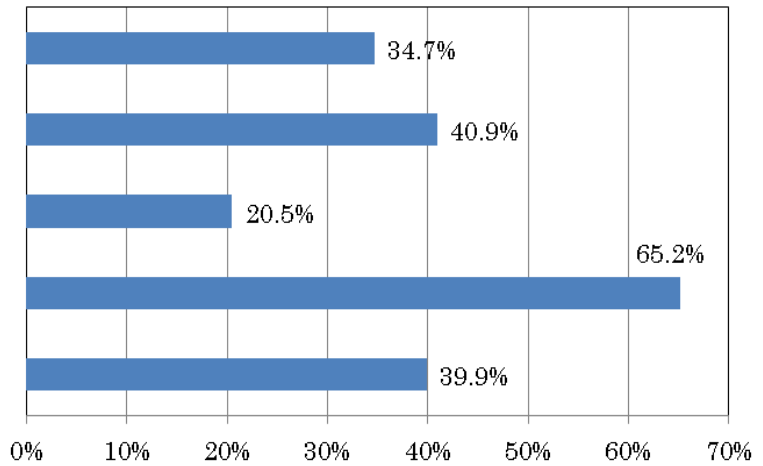


(設問) 指導された方の中に中学生時代に生徒として「トライやる・ウィーク」を体験された方はいますか。

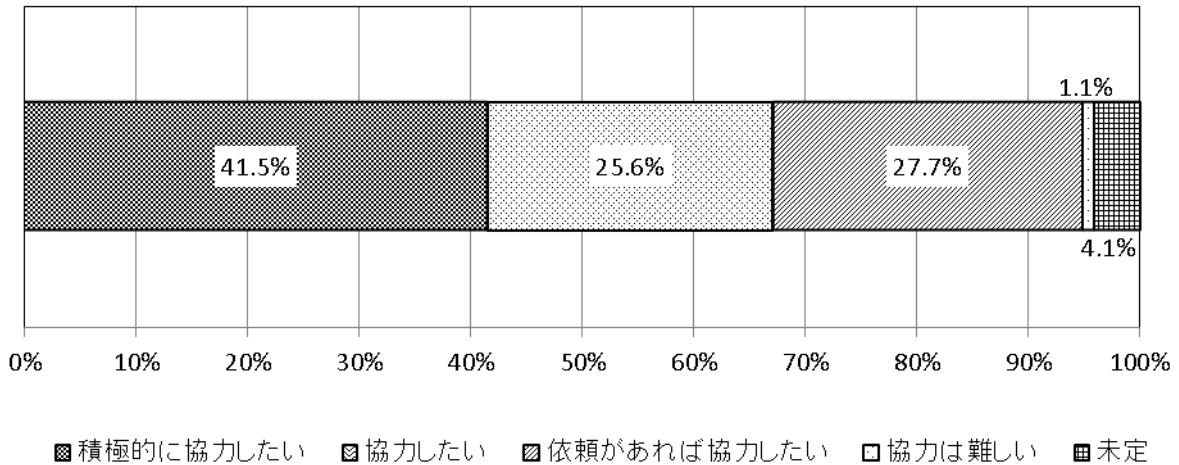


【新】「トライやる・ウィーク」の体験が影響した内容】

- ①人の考えや気持ちを受け止めようとするようになった。
- ②興味や関心、長所や短所を把握するようになった。
- ③自ら進んで質問したり、資料や情報を収集するようになった。
- ④自分の将来について考えるようになった。
- ⑤自分の進路を決定する上で影響があった。

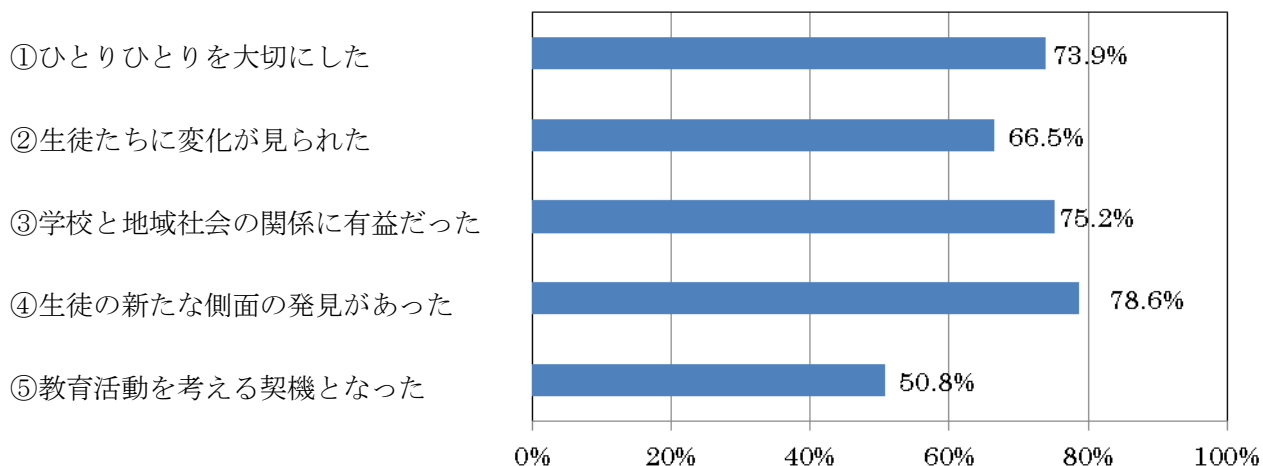


(設問) 来年度以降も、「トライやる・ウィーク」にご協力をお願いしますか。



4 教職員アンケート（回答数 3,003人）

- （設問）
- ①ひとりひとりを大切にしたい「トライやる・ウィーク」が実施できた。
 - ②「トライやる・ウィーク」を通して生徒たちに変化が見られた。
 - ③「トライやる・ウィーク」が学校と地域社会の関係にとって有益な活動であった。
 - ④「トライやる・ウィーク」を通して生徒の新たな側面などの発見があった。
 - ⑤「トライやる・ウィーク」が教育活動を考える契機となった。



○ 教職員の感想より

- ・生徒たちの表情を見ていると、こちらまで幸せを感じるくらい、熱心かつひたむきに取り組んでいた。事前の準備には時間がかかるが、それだけの価値がある活動だと実感している。
- ・地域の方から指導を受け、体験を通して学ぶことは大いに意義がある。事業所の方に大変な負担をかけていることを意識させ、感謝の思いを持って活動に取り組ませたい。
- ・事前・事後指導を含め、緊張感をもって臨む生徒が多いように感じる。キャリア教育の視点からも、社会勉強の貴重な機会であり、意義のある事業であると感じる。
- ・普段の生活では体験できない社会のルールや仕事の裏側に触れることができ、子ども達の視野も広がったように感じました。
- ・挨拶の大切さを学校で指導するのと、受入先から教えていただくのは、生徒の受け止め方が違い、より心に届くと感じた。とてもいい勉強をさせてもらった。
- ・人前に立つことが苦手だった生徒が、顔を上げて全校生の前でスピーチができたり、目配り気配りができるようになったりした。受入先の方に非常にお世話になり、生徒たち一人ひとりの力を伸ばしていただいております。
- ・「地域の子どもたちのためなら」という言葉をたくさんの受入先で耳にし、受入先の方々の思いの強さを感じた。
- ・活動中の生徒の様子を見ていると、学校での活動とは違った顔つきで緊張感のある動きをしていたのが印象的で、成長していると感じた。

[資料2] 平成29年度「トライやる・ウィーク」校区推進委員会について

1 校区推進委員会の設置状況

すべての公立中学校、県立中等教育学校、市立特別支援学校、市立義務教育学校に設置されている。

2 校区推進委員会への参加者数及び内訳（平均人数）

学校関係	P T A関係	地域団体代表等	合 計
6.1名	6.3名	6.3名	18.7名

3 推進委員会の機能の状況

よく機能している	概ねできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計
21.4%	57.9%	17.8%	2.9%	100%

4 校区推進委員会が行っている活動例

・保護者、地域への啓発・協力依頼	・・・	74.3%
・受入先の開拓	・・・	69.6%
・巡回訪問	・・・	55.6%
・受入先の検討	・・・	54.7%
・事前・事後指導における支援	・・・	43.3%
・生徒の活動についての検討	・・・	39.8%
・アンケート・まとめ	・・・	24.3%
・受入先への取材	・・・	16.1%